

論文名 : Changes in the incidence of cervical lesions owing to the development of rheumatoid arthritis treatment and the impact of cervical lesions on patient's quality of life. (関節リウマチ治療の発展に伴う頸椎病変の発生率の変化と患者の生活の質に対する頸椎病変の影響)

長岡赤十字病院 脊椎脊髄外科

氏名

森田 修

---

#### 【目的】

今日劇的に進歩した関節リウマチ (RA) の治療体系において頸椎病変の発生頻度がどのように変化したかを明らかにするとともに、頸椎病変が生活の質 (QOL) に及ぼす影響を明らかにすること

#### 【方法】

2015年に調査したRA患者1333例での頸椎病変発生頻度と過去に調査した1999年の症例の発生頻度を比較調査した。また、頸椎病変がQOLに及ぼす影響については3つの患者立脚型アンケートでその関連性を調査した。

#### 【結果】

代表的3つの頸椎病変を調査、環軸椎亜脱臼は1999年に比し50%の減少、軸椎垂直性脱臼は75%の減少、軸椎下不安定性症については20%の減少がみられた。QOLについては頸椎病変に特異的なJOACMEQ評価法と包括的健康度の指標であるSF-8、RAに特異的なHAQ-DIで調査、JOACMEQでは頸椎病変の進行とともにQOLの悪化がみられた。しかしSF-8では頸椎病変の進行とQOLには明らかな関連は見られなかった。またHAQ-DIでは頸椎病変の進行がQOL悪化に影響を及ぼしていたが、年齢や罹病期間のほうがより影響が大きかった。

#### 【結語】

1999年に比し2015年の調査では頸椎病変の発生率は減少していた。頸椎病変は脊髄障害を合併した場合にQOLを悪化させる可能性が考えられた。年齢や罹病期間もQOLに影響をおよぼす因子と考えられた。